

2013年秋、中大 大躍進!

地元国体で念願の優勝

ボクシング部 保田克也選手



ボクシング部の保田克也選手(商学部3年)が10月8日、東京国体成年ライトウェルター級で優勝した。全国大会初優勝だった。

昨年の全日本選手権準優勝で自信を深めた保田選手。ことしは地元国体優勝に照準を絞った。試合会場は寮生活をする中大南平寮に近い日野市の市民の森ふれあいホールだ。リングサイドには仲間や日ごろ応援してくれる人た

ちが大勢集まった。

準々決勝で左拳を痛めた。サウスポーだけに、戦力ダウンは免れない…。「原因はわかりませんが、手を握ることもできませんでした」。大ピンチだ。

「バンテージをきつく締めて患部をしびれさせ、感覚をなくした。痛めたけれど逆に右をよく使ったから、左が効果的に使えた」

いつもと違うサウスポー。今度は相手が困惑した。

準々決勝から、準決勝、決勝と判定



勝ち。決勝で東洋大の金城選手を退け、優勝した瞬間は「ホッとして、実感がわかなかった」そうだ。表彰式でマスコミの取材、写真撮影が相次ぐと「優勝したんだとじわじわ思うようになって、うれしかったです」

当初はキックボクシングをしていた。「パンチが下手だったので、ボクシングを始めたら、はまって」中学3年のときだった。水戸短大附属高(現・水戸啓明高)で徐々に頭角を現し、7月には中大6年ぶりの1部昇格の牽引車となった。

「彼は勝っても、内容に不満があると悔し涙を流すタイプ」とは保田選手をよく知る柏木哲部長。「普段は明るい学生ですが、リングに上がると顔つきが変わる。怖いくらいです」

学生ながら、勝利を目指す気持ちはプロフェッショナルである。

自転車の中大 注目の成年ケイリン優勝

東京国体では、自転車競技部も大活躍した。池野健太選手(経済学部4年)が成年男子ケイリンで優勝、高士拓也選手(法学部2年)も成年男子4km速度競走で優勝した。

注目の成年ケイリンは10月3日、立川競輪場で大会最終種目のメインイベントとして行われた。最多8人の選手が横一線に並び、一斉にスタートする、おなじみのレース。ギャンブルの印象が強いようだが、ケイリンは日本発祥の五輪種目である。

注目が集まるなか、兵庫県代表(三

田学園高)として出場した池野選手が、強豪たちを抑えてトップでゴール。優勝の瞬間は、拳を天に突き上げて、喜びを表現した。

同選手は日本自転車競技連盟が指定するトラックレース短距離、男子エリート強化育成選手。「部で関西弁をしゃべる男がいたら、ボクと思ってください」と自身のブログで呼び掛ける。人懐っこいタイプの将来有望なアスリートである。

中大自転車競技部は創部60年の歴史を誇る。強豪大学として全国に知ら

れ、7月の全日本選手権ではチームパシュートで優勝した。4分16秒485の大会新記録で栄冠に花を添えた。

メンバーは黒瀬耕平(法学部3年)、緑川竣一(同3年)、神開一輝(経済学部2年)、高士拓也各選手だった。

大会はことしから大会名称にアマチュアの表記がなくなり、プロ選手も多数参加して、高いレベルの試合が展開された。個人種目で表彰台に立ったのは、男子スクラッチ15km2位の高士選手ひとりだったとはいえ、“自転車の中大”を大いにアピールした。



インカレ優勝相次ぐ 陸上競技部

改装される東京・国立競技場を最後の舞台として、9月に行われた陸上の全日本インカレ(日本学生対校選手権)で、中大が男子3種目で優勝した。猶木雅文選手(法学部2年)が200mを制し、4×100mリレー、4×400mリレーでも1位になった。200mで世界陸上出場の飯塚翔太選手(法学部4年)はエントリーしていなかった。

猶木選手は東京高出身。中大陸上競技部が関係者にはがきでお知らせす



200mを制した猶木選手の走り
写真提供=中大スポーツ

る大会記録に、ただ一人プロフィールが紹介された。

リレーメンバーは次の通り。
▽4×100mリレー／女部田亮(法学部4年)、猶木雅文(同2年)、渡辺将志(経済学部2年)、飯塚翔太各選手
▽4×400mリレー／皆木佑太(総合政策学部2年)、飯塚翔太、猶木雅文、木村淳(法学部4年)各選手。

水の中大 高らかに

水泳の全日本インカレ(日本学生水泳選手権)は9月に広島市で行われ、中大



男子100mバタフライで優勝した神野選手
写真提供=中大スポーツ

は個人種目で3つのメダルを取り、リレー優勝も飾った。エースの塩浦慎理選手(法学部4年)が男子自由形50m、100mの2冠に輝き、同100mバタフライで神野雄司選手(経済学部3年)が優勝した。リレーでは400mを制した。リレーメンバーは宮本淳平(法学部4年)、石橋千彰(総合政策学部4年)、矢野貴寛(法

学部3年)、塩浦慎理各選手だった。

水球も健闘して、神奈川・相模原市での全日本インカレ水球(9月)で、銅メダルを獲得した。昨年5位からの躍進だった。

東京国体では、塩浦選手が自由形50m、100mの2冠を達成した。ともに大会新記録だった。

ソングリーディング部

アジアオープン準優勝

チアダンスのソングリーディング部が国際チア連合(ICU)主催のアジアオープンチアリーディング選手権ダンス・チームチアフリースタイルボン部門で準優勝した。大会は9月14～15日、東京・国立競技場第二体育館に台湾、韓国、ロシア、シンガポール、タイ、ウクライナ、米国と日本のチームが集まって行われ、ボンボンを使って競う同部門で中大チームは昨年3位から順位を一つ上げて2位となり、準優勝賞状、トロフィー、銀メダルを獲得した(写真)。

同部は2008年に結成され、部員は27人。愛称ガーネット・ガールズ。昨年は全国約350チームが競った全日本チア

ダンス選手権(11月)ボン部門大学編成で全国優勝した。

ことし4月には米国フロリダ州に世界約50カ国・地域チームが集結した世界大会「The Dance Worlds」に日本代表として出場し、決勝へ進出。6位入賞を果たした。



氏名	学部学科
中村 磨生子	商学部2年(部長)
岡崎 愛実	文学部2年(副部長)
熊澤 莉紗子	法学部2年(副部長)
上杉 有香	法学部2年
大嶋 夏実	法学部2年
野村 碧	商学部2年
吉野 由花	商学部2年
大槻 麻莉子	法学部2年
小糸 美鈴	総合政策学部2年
國分 星香	文学部2年
日野 紗和	経済学部2年
椎木 萌	法学部1年
渡邊 桂子	経済学部1年
碓井 美雅子	経済学部1年